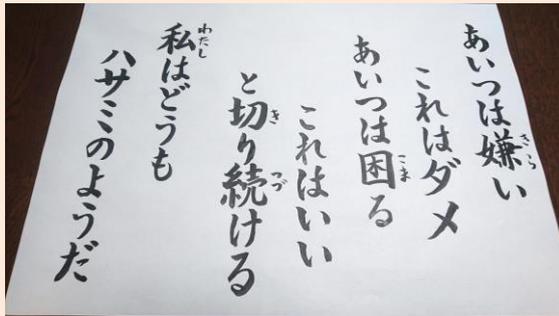


## 今月のことば



小学6年生の言葉だそうです。  
私たちは自分の価値観、正しさで人や物事を切っているのかもしれない。  
深く自分を見つめる言葉です。

## INFORMATION



毎月28日 仙台駅東口界隈を観光案内している「宮城野さんぽみち」の方々が3月28日ご来院されました。歴史や仏教に興味のある方が多く、徳泉寺や仏教の歴史について本堂に掛けられた掛け軸をもとに、お話しさせていただきました。

「宮城野さんぽみち」ご来院

## 同朋会コーナー

四月同朋会より

住職法話一部抜粋 『価値観のゆらぎ』より

私たちは自分の価値観で物事を判断していきます。しかし、自分の価値観で判断した正義が他の人を傷つけることもあります。あるカルト宗教に入教していて、のちに真宗の僧侶になった方の著書にこの価値観について触れた部分があります。「私は自分の中に仏教の教えを取り込み、それを価値観としていこうとしていたのだがそうではないのではないか。『私』という価値観で仏教の教えを利用して次のステージへいこうというようなことを求めていたのだがどうやらそうではないようだ。」というものです。宗教とは利用されたりしたりするものではなく、そうした価値観に左右されてしまう存在である「私」の姿に出遭っていくということなのでしょう。

前住職法話一部抜粋 『命日(めいにち)は命(いのち)の日』より

亡くなった方のご命日に年回忌法要を行います。この法要にはどのような意味があるのでしょうか。祖霊信仰では亡き方の冥途の幸せを祈るためと言われます。しかしそうではなくて、亡くなった方が私たちに願っていることを受け取る日、つまり自分たちが生きていく命について考えさせていただく日であると云えます。「寿命」とは命を寿(ことほ)ぐと書きます。私の命が喜べる命であったか、自分にとって意味のある人生を歩いているのか。限りある人生を歩んでいくのだということに気づき、その中で自分を明らかにしてほしいと亡き人に願われていることに気づく日のご命日であるのです。

## 五月の同朋会

日にち 五月十一日(第二土曜)  
時間 十三時～十六時  
場所 徳泉寺同朋会館  
持ち物 数珠 勤行本  
茶菓代 五〇〇円  
どなたでも参加できます

### とくほう 『徳泉寺報』後記

学生や社会人にとっては区切りの節となる春。春が来るといつも何か新しいことをひとつ始めたくになります。いままでの自分にもうひとつ加えて。さて、なにをいたしましょうか。